

れんけいと支援

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

Face to Face,

Heart to Heart

富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112(代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> 発行日 2022年5月

“見えない膀胱がん”を可視化する アミノレブリン酸を用いた光学診断

泌尿器科 見玉 浩一



膀胱がんは、膀胱の内側の粘膜（尿路上皮）に発生します。多くの場合は、膀胱鏡検査で腫瘍を同定可能です。

しかし、膀胱鏡検査をおこなっても、存在がはっきりしない腫瘍があり、われわれ泌尿器科医の頭を悩ませてきました。それが上皮内がん（図1）です。内腔に突出せず、筋層に浸潤せず、粘膜上皮内で平らに広がります。これまでは上皮内がんの診断にランダム生検がおこなわれてきました。“相手が見えない”ことが診断率の低さにつながっていました。

そんな中、アミノレブリン酸（5-ALA）を用いた診断方法が登場しました。生物界に広く存在する5-ALAは、細胞内でプロトポルフィリンIX（PPIX）を経てヘムに変換されます。がん細胞

では正常細胞に比べてPPIXが細胞内に多く蓄積されます。PPIXは青色光線を照射すると励起され赤色

蛍光を発するという性質を利用し、5-ALAをあらかじめ患者に内服させて、がん細胞の視認性を高めようとするのがこの新しい方法です。

当院でも2018年1月から5-ALAの使用を開始し、現在までに24例に同検査を施行しました。“見えなかった膀胱がん”が見えるようになり（図2）、生検での診断率が確実に上がりました。今後も症例を積み重ねていきたいと考えております。

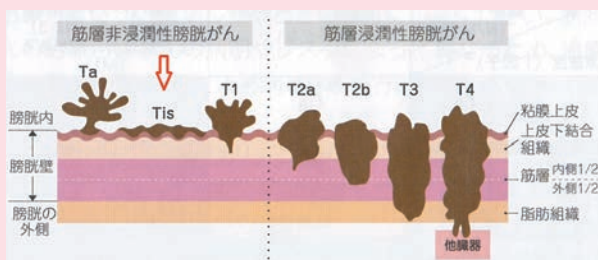
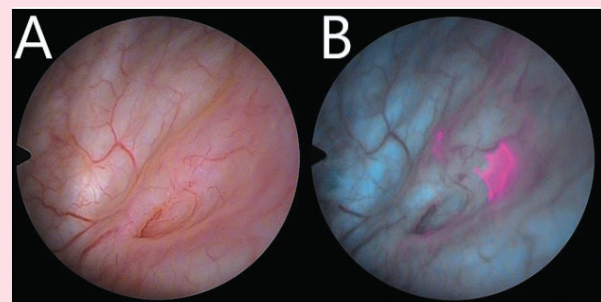


図1 膀胱がんの深達度（矢印が上皮内がん）



(A) 白色光では異常を認めない (B) 青色光では腫瘍が可視化された

図2 アミノレブリン酸を用いた膀胱鏡検査



1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）※会場またはWEBでの参加が可能です。

※会場またはWEBでの参加が可能です。

※令和4年6月は、症例検討2例各30分、ミニレクチャー1題30分の予定で開催いたします。
ご参加のほどよろしくお願いいたします。（日本医師会生涯教育制度のカリキュラムコードの
付与は、3つとなります。）

日時：6月14日（火）19：00～ 場所：当院3階 講堂

1) 症例検討

(1) 「智歯抜歯の依頼をきっかけにして見つかった上顎の広範な顎嚢胞の1例」

歯科口腔外科 高橋 勝雄

(2) 「腎、前立腺、および残存尿管に発生した泌尿器系三重複癌の1例」

泌尿器科 高瀬 育和

2) ミニレクチャー

「認知症の病態・種類・治療」

精神科 坂本 和巳

日本国内において認知症高齢者は、2012年には462万人でしたが、2025年には約700万人、2060年には850万人に増加していくと推計されています。高齢者の増加とともに認知症の患者数が増え、有病率も高くなっています。このように急速に増加している認知症に対して、認知症非専門医の医療機関での診療を求めることも日常的となってきました。認知症を診る専門医とともに、地域の医療との連携、多職種での連携・協力して対応していくことが大切であると考えられます。今回は、認知症の分類、診断、治療の基本的な診療について、レ

クチャーいたします。認知症の背景疾患としては、アルツハイマー病、脳血管性疾患、レビー小体病などが主に認められます。これらの認知症の特徴や主な症状について述べさせていただきます。また、認知症の症候は大きく、中核症状と呼ばれる認知機能障害と、周辺症状と呼ばれる精神症状、行動障害とに区別され、後者は認知症の行動・心理症状 behavioral and psychological symptoms of dementia (BPSD) と総称されます。BPSDが対応で問題となることが多いためこちらについても述べさせていただきます。

予告 日時：7月12日（火） 19：00～20：00（ハイブリッド開催）

場所：当院3階 講堂

内容：①症例検討 1例（担当）呼吸器・血管外科

②ミニレクチャー 1題（担当）緩和ケア内科

地域連携症例検討会に関しては、今後もWEBを利用したハイブリッド方式で開催していくことを計画しています。つきましては、ZOOM会議のご案内に関して参加される先生方の利便性に鑑みURLならびにQRコード等をお送りするため、下記のメールアドレスへ①貴施設名 ②氏名を明記の上、メール送信いただきますよう、よろしくお願いいたします。一度登録していただければ今後継続してご案内をメールでお送りいたします。

ttn2168@fch.toyama.toyama.jp（ふれあい地域医療センター 地域医療連携室）

※定例の研修会、看護研修

※定例の研修会、看護研修は、COVID-19の状況を見ながら再開の予定です。

2. 腎臓病教室

日時：6月8日（水） 13：30～15：45

場所：当院3階 301会議室

今年度は6月、10月、2月の3回の開催を予定しております。

腎臓病教室に関するお問い合わせは、内科外来までご連絡ください。

新生児看護エキスパート活動報告

新生児看護エキスパートナース
橋場 香、高安 律子、佐渡 加奈子

当院の産科病棟では年間350人の新生児が誕生しています。新生児は出生を境に胎内生活から胎外生活へ急速に変化します。順調な妊娠・分娩を経過した場合でも予想外の新生児仮死が発生することが稀ではありません。当院では新生児蘇生法を習得した医療スタッフが新生児の担当として分娩に立ち会い、安全で安心できる体制で分娩に臨んでいます。

新生児看護エキスパートナースの活動として、スタッフがWEBでeラーニング講座を受講し学んだ新生児蘇生法の知識や基本手技を、分娩時にアルゴリズムに沿って実践できるよう手技の確認や状況を設定してのロールプレイなどを行い個々の技術向上に繋がる取り組みを行っています。新人・新任スタッフが新生児の特性を理解し細やかな観察やケアの実施、異常の

早期発見ができるように指導を行っています。また早産児や疾患のある児の看護が行えるように学習会の開催、感染対策の徹底、特殊な医療機器の取り扱いや点滴固定法の手技獲得の指導なども行っています。

医療スタッフにサポートされ、安心感の中、あたたかく見守られた、いいお産の記憶がその後の母子関係・母乳育児に影響を及ぼすと言われています。児の誕生を家族と共に喜び、家族のはじまりをサポートしていきたいです。現在新生児看護エキスパートナースは産科病棟、小児科病棟、産後ケア応援室に勤務しています。子育て世代包括支援センターとも連携し様々な子育て支援に繋がるように支援していきたいです。



医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

6月

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	寺崎敏	17日	皮膚科	大村	30日
	大田聡	9日、10日	呼吸器・血管外科	土岐	28日
整形外科・関節再建外科	重本	3日、24日	眼科	高松	9日、10日、27日
麻酔科	真鍋	24日	歯科口腔外科	寺島	13日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

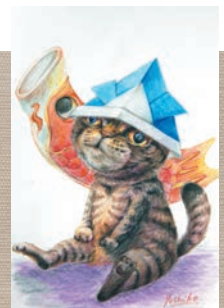
編集後記

春は気温の変化が大きく体調を崩しやすい季節でもあります。身体がついていかないことも。私はそんな時、去年母が漬けた梅シロップの炭酸割りを飲んで、元気を出しています。酸味があり適度な甘さもあります。自分で濃さを調節できるので暑ければ薄く、涼しければ濃くして味の変化を楽しんでいます。梅の季節ももう少し・・・

皆さんもなにか体調管理に役立てて飲んでいる飲み物や、食べ物などはありませんか？

薬剤部 武藤 昂一郎

作：病院ボランティア 篠崎 佳子



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

